

JPDU autumn Tournament 2012 Adjudicator Sheet (Score/Comment Sheet)
Sample Debate: THW give family members the legal right to forcibly commit legal
drug addicts and alcoholics to rehab clinics.
Adjudication Coreの見解

Opening Government	2nd	Opening Opposition	1st
Prime Minister	72	Leader of Opposition	80
Deputy Prime Minister	78	Deputy Leader of Opposition	71
Total Score	150	Total Score	151
Closing Government	4th	Closing Opposition	3rd
Member of Government	70	Member of Opposition	72
Government Whip	78	Opposition Whip	77
Total Score	148	Total Score	149

点数は目安であって前後1、2点はずれ得ると思いますが、あまりに上記の点数と異なるときは上の点数に合わせて本番ではジャッジするようにお願いします。

A General remarks

B Reason for decision

A General remarks

非常にcloseで、多様な見方ができるため、どのチームがどの順位をとってもおかしくないroundだといえます。

今回出した順位はあくまで一例ですので、一致・不一致はそこまで重要ではありません。ですが順位の原因付けと説明に関しては、この見解で示している程度にしっかりやっていただくよう、大会本番ではよろしくをお願いします。

例えば、今回のroundにはroleを十分に果たしていないスピーカーもいると判断できますが、自動的に負けにするのではなくて他のチームのrole fulfillmentと相対的に比較して判断してください。

B Reason for decision

OO>OG

1. principleに関しては若干OGのほうが良かったか、ほとんど変わらない程度であった。

中毒者の権利を侵害できる理由として、OGからは大きく2つあげられていた。1つ目に、”すでに中毒者であり、正常な判断ができない”ことをあげ、アナロジーとしてはカルト等が挙げられていた。飲酒運転に関しては、わからなくはないがOGの時点でクリアに説明されることはなく、モーションとの関連性が分かりにくかった(関連性を見せたのはCG)。これに対してOOからは”合法であり、社会的にも合意が得られたことを行っているだけ”と説明し、アナロジーとしてカジノなどをあげていた。この点に関しては説明量の差はなくどちらにも優位性は見られない。2つ目に、”結婚している以上ある程度権利を侵害されることは仕方がない”という主張を出し、所有権の共有などのアナロジーを出していた。これに対してOOは結婚前にConsentがある、という分析を出していたがアナロジーまで出しているOGの議論を大きく切っているとは言えない。またOOは家族にも責任があるという話をし、DLOでも繰り返していたがこのポイントに対する反論としては話されていなかったのが最終的に、OGの2つ目の話にしっかり返しているとは言えず、少しOGの主張が残った。その他、OGは家族がBest decision makerであったり利益を共有するという話をしていたがどちらもAssertiveでありあまり評価できなかった。仮にイラストを評価したとしても、その分析が何を支えているのかが分かりにくかった。家族の権利が中毒者の権利を上回る理由にはならないし、家族のDecisionが良いという分析であるとしたら、LOに反論されていた。OOはAddictionに関する線引きがあいまいであるという理由付けをしていたが、DPMの反論(SQでも判断している、医者が判断する)である程度返されていた上あまり本質的ではないので大きく考慮されなかった。

2. Practicalにおいては明瞭な差があった。

OOが話していた”Autonomyの侵害であり、好きなことができなくなってしまう”という話はLOでなされ、DLOでもイラストされた。また、Chilling effectに関しても話され、これら二つに関しては反論がされなかったため、ある程度評価できる。OGが話していたSQの問題に関してはOOからは家族が説得できる、本人の努力が期待できないためにRehab clinicに行っても変わらないという2つの反論が来ていた。説得に関してはDPMにおいて反論がされていた(そもそも説得できない、説得できない人がターゲット、等)が、OOはなぜ説得できるかに関して、常に中毒の症状が出ているわけではないという理由を付けていたため、若干OOのほうが説得的であった。また、Rehab clinicに行っても変わらないという分析に関しては反論されなかったし、OOは説得できなかった中毒者に対する分析を説得されて変わる人と変わらない人に分けるなどして丁寧にしていたのでOGの問題解決可能性はかなり削られてしまった上、OGとして全くRehab clinicの話をしなかったことが、最終的にかなりOGの評価を下げることになった。

3. Roleに関してPMはセットアップ、DPMはLOのポイントへのEngage、DLOはDPMのEngageに関して難があるのに対して、LOは唯一無難に役割を果たしていたと言える。DLOはEngageがかなり不足していたが、アルコールが好きな人の話など、新しいことをラウンドに持ち込んではいるのでPMと比べて特別に評価を下げられることはない判断した。

1-3を全体的にみてOO>OGとした。理由としてはまず、ある程度クリアに2,3でOOに優位性があるため、OGの優位性をやや優れているかもしれないPrincipleに求めて、OGにVoteすることはできない。また、もし仮にOGのPrincipleの分析のほうが上回っていたとしてもOGのケースはRehab clinicの利益を示して始めて強くなると今回は判断し、OGのPrincipleでの優位性を大きくとれなかった。

OG>CO

1. 中毒者の権利を侵害できるかどうかという議論において、OGは中毒性がありそれによる害があることをあげ、COは個人の価値観の重要性をあげていた。Practicalなイラストなどに関しては、どちらもなされている上、OGのハームに対するCOの反論に関してはDPMのところすでに反論されていたのでどちらかを評価することはできなかったが、以下の2点でOGをCOより上にした。1つ目に、OGがずっと押ししている中毒性により正常な判断ができないという分析についてCOからの有効な反論がない点。Addictionの定義に関する指摘はすでにOOがしている上にDPMに返されているのであまり意味がなかった。ラウンドを通してターゲットは基本的には正常な判断ができない人となっており、その上でCOのポイントは、正常な判断ができる人に関する話をしているので、弱くなってしまった。2つ目に、COからはそれら(個々の価値観を守る)のPracticalを押ししたあと、なぜ中毒者の権利を侵害できないかという議論がほとんど新しく展開されず(OOがすでに話していたLegalやConsentに関して若干付け足しはあるものの繰り返しだけでOpening halfでのDead lockは解消されなかった)、なぜその議論が大事なのが分かりにくかったという点。逆にOGからは、個人の価値観を認めつつもなぜ家族が特別な権利を持つべきかという理由(PM)とアナロジー(DPM)が話され、ラウンドの中での重要性が分かった。特にDPMのアナロジーは結婚後の所有権、カルト等現状合法なものを使っているので、COのケースに対してかなり返していると言える。

2. PM、MOはどちらもRole fulfillmentに問題があったが、今回はMOの評価を下げた。PMはセットアップに対するPOIIに少し答えられてはいないものの、POIでの質問はそもそも本質的ではなく実際にDPMでもそう返されていた上、ラウンドを混乱させたものではなかった。MOは、ポイントの説明で個人の価値観の議論に関してExtensionとしてクリアではなく、またその重要性までは分かりにくく、OWによってクリアにされた。GovからのEngageのチャンスはGWにしかなかったことを考えると、MOの説明不足はラウンドを発展させることに至らず、OWの議論は全くGovに触れられることがなかった。

3. COからはRehab clinicに行った場合のハームがでていたが、OGはハームを受け入れていたので、1,2を考慮するとCOがOGの上に来るほどのものにはならなかった。また、GWがしたそれだけハームがあるならRehab clinicは働くのではないかという指摘に対して、OWは全く触れなかったため、ポイントの評価は低くなってしまった。

4. POIIに関して、DPMは取っていないが、OGとしては3回とっているため、評価を下げることはしなかった。

CO>CG

1. Extensionによる貢献がCOのほうが大きかった。CGのExtensionはチームとしてしっかり説明されておらず、1つ目に関してはルーチンだと思っているという分析を支える理由が薄く、2つ目に関しても説明時間が短く、強くとれるイラストがなかった。また、もししっかり説明されていたとしてもどうしてlegal rightにつながるのかというリンクも薄かったためすでにOGで説明された話を少しサポートしている程度にしかとれず、GWでも大きく押されなかったのでラウンドの中での重要度が分かりにくかった。GWはOOの議論のPersonal effort に関してExtensionと、相手の議論をフリップすることによって返そうとしていたが、“とりあえず行くことが大事”等、若干AssertiveでOWのExtensionに対するイラストと比較すると、貢献は相対的に小さかった。MGでの反論に関しても、新しくGovのケースをサポートしているとは取れなかった。対してCOのExtensionはMOでは(特に)Rehab clinicに送られるハームが示され、Diverse tasteに関してもOWで延ばされた。このExtensionはOOの1stポイントを強く支えOpp全体としてのハームとなりラウンドの中でもある程度重要なものとして評価できた。さらに、OWはスピーチ内でExtensionを押すことに加え、MOで使用された反論(結婚前のConsent)もGovのケースに返していることを示そうとしていた。

2. チームとして一貫性があったのはCOである。GWは新しい反論などによりGovの勝ちを示そうとしていたがMGを押すことはできておらず、上記の通りOWはMOがラウンドに持ち込んだExtension、反論を押していた。

3. Engagement に関して、どちらも双方のExtensionに関して直後のスピーカーが反論していなかったが、メンバーの時点でより新しいと評価できるExtension(Rehab clinicによるハーム)を出したCOに反論しなかったCGの評価を下げた。また、CGのExtensionに関しては一応OWでEngageされていた。

4. GWのスピーチはかなりGovのケースを支えいい反論をしていたが、結局OGのケースを少しかれいに言い変えただけという側面が強い(SQでもaddictionに関して線引きできること、Persuasion失敗した人がターゲットであること、SQのハームに関してはすでにOGが触れていた)ことを考慮すると、上記の1~3のCOの優位性を返すほどのものであるとは判断できなかった。